

今や、バタフライロゴを薦めるとき

WPA(水なし印刷協会)の規模がまだ小さい頃、ジュリー・レオンハード会長のリーダーシップ下で今馴染みのバタフライロゴを創り出したが、誰しものがこんなに普及するとは思わなかった。

欧州で、米国で、それに、特筆すべきは日本で水なし印刷業者がこのロゴを意欲的に使用してくれたおかげで、環境に優しい印刷方式としての「環境ブランド」の地位を確立するまでになってくれた。世界を取り巻く環境規制が印刷企業への順守圧力となってきたので、水なし技術は広く認知されるようになってきた。

水なし印刷では湿し装置がなく、廃湿し液、廃湿し液化学物質がないので、これがコスト順守にも繋がっている。規制順守はこの話の一端に過ぎない。水なし印刷の持つ生産性の高さご注目頂きたい。

日本WPA、五百旗頭忠男の講演資料(10月21日開催・海外印刷業者向けシンポジウム)によると、水なし印刷業者の従業員一人当たりの売上高は、従来オフセット業者の売上高に比べ、1000万円もの差をつけている。生産性向上の別の資料として、彼は米沢市のパッケージ印刷業者、精英堂印刷様での驚くべき、実績事例を引用していた。



日本の会員が印刷しているバタフライロゴを付けた多くの印刷物の中の一部サンプル。雑誌、グリーティングカード、企業の環境報告書、その他出版物と多岐にわたる。

同社では3台の枚葉・水ありオフセット機を使用していたが、月間の版使用量は1500版であった。1999年に1台の水なし印刷機を導入したが、この1台で月間1500版をこなして

れ、従来の水あり機 3 台分の生産性をあげたことになる。

とかく、我業界の印刷業者、関連業者から水なしなんかで、環境法令順守と生産性向上の両股を実現できるのかと嘲るフシもあるうが、現実、生産性向上はこのようにして行っているのだ。水なし印刷を取り巻く外からの不本意さがテコとなり、WPA のバタフライロゴ発展のはずみとなってくれた。

ジュリー・レオンハートのお陰で、最初、フォードモータース社の 1988 年度環境報告書にロゴが採用された。まもなく、アメリカン・デジタル・イメージング社などの W P A 会員が自社の印刷物のブランド化として、バタフライロゴを採用し始めた。先進客でのロゴの採用が評判となり、他の顧客が使用を申し出てくれた。環境に優しい印刷物作りとして、しばしば、再生紙 R マーク、ソイインキマークと同時に使われている。



W P A のバタフライロゴは 1998 年、ときの W P A 会長、ジュリー・レオンハートにより創られ、最初の採用先は上右のフォードモータース社の環境報告書で、上左には再生紙 R マークとソイインキマークが付加されている。ジュリーの会社は蝶々を素材にした見開き広告をデトロイト印刷購買者の出版物に出している。

2000 年になり日本の印刷会社が W P A に加盟し始めた。彼らはこのロゴを顧客に迅速に薦め出した。日本の印刷業者は "Waterless Printing. Naturally." の持つ力を先進企業の環境報告書で発揮できると踏んでくれた。

名古屋の笹徳印刷様はあの自動車の雄、トヨタ自動車へバタフライロゴを日本で最初に薦めてくれたのだ。フォードの事例と同様にして、トヨタは 2001 年の環境報告書にこのロゴを使用した。



鈴木高明氏は自社のトラックにバタフライロゴを大きく描画してくれた。精英堂印刷様では既に 100 社の印刷物にバタフライロゴを付けてもらっている。

水なし印刷が環境報告書分野で採用されていくのにさほど時間はかからなかった。日本での水なし印刷の業者数はまだ、比較的少ないが、日本での環境報告書の 25%はバタフライロゴ入りとなってくれている。日本の水なし印刷業者はバタフライロゴをこの特別の分野だけでなく広い範囲に使っている。

日本WPAの正会員数は75社であるが、バタフライロゴを環境ブランドと位置付け、グリーティングカードからパッケージングまで使っている。パッケージ印刷業者の精英堂印刷様だけでも100社の顧客のロゴを使ってもらっている。

水なし印刷化の運動を進め、水なし印刷のビジネス付加のためにも、我会員にバタフライロゴの積極使用を促したい。今日では、印刷製品は一国に留まらず、他国へも流通してくれる。印刷製品にバタフライロゴが表記されていると、それが注意を引き、水なし印刷需要に更なる拍車がかかろう。五百旗頭忠男は先の講演でこの点の触れてくれたが、この記事への資料提供とあいまって感謝したい。

会員向けバタフライ販促ペラ

良く言われる声に応え、会員向けの販促物「水なし印刷技術シート」を用意することになった。最初の4種は「水なし印刷はどのように作業するか」「デザイナー、印刷発注者のための水なし印刷の利点」「水なし印刷と環境」「DI印刷機、プレステック社のDI水なし印刷」である。

WPAの商標登録、バタフライロゴがますます増える中で、このテーマ別の販促ペラは環境メッセージ「Waterless Printing. Naturally.」に添える有効な手立てとなろう。すべての蝶々はシカゴでプロ写真家、Dan Warkentien が撮影されたものがベースとなっている。

蝶々はシカゴの野外自然歴史博物館で開催された展示会で撮影された。

全ての画像、イラスト、文字はCDディスクに書き込まれている。プレステックDI版を除き、300線対応となっている。4色分解ずみ。A4判であるが、クオークエクスプレスであり、変更がきき、標準米国サイズ8-1/2 x 11インチにもできる。



印刷会社が水なし印刷の販促に使える 4 種の販促ペラは会員向のもので、注文書は本紙の中に挿入しておいた。追加注文書は W P A 事務局まで申し出られたい。この 4 種のピラの写真はオリジナルもので、貸しボジは一切、使っていない。写真はシカゴの野外自然歴史博物館で開催された展示会中に撮影された。印刷会社で複製は許諾されるが、プレステック D I ペラは 300 線相当となっている。

本紙の裏面下部分は意図的に空白にしてある。会員はここへ独自の文言、適当なロゴを挿入されたい。C D は次の構成となっている。

機外製版 C D パッケージで 3 種の技術シート、「水なし印刷はどのように作業するか」「デザイナー、印刷発注者のための水なし印刷の利点」「水なし印刷と環境」を含む。価格は 59.95 ドル。

プレステック D I C D パッケージで 2 種の技術シート、「水なし印刷と環境」「D I 印刷機、プレステック社の D I 水なし印刷」を含む。価格は 39.95 ドル。技術シートは個々にも購入可能、1 個 24.95 ドル。手数料は C D ごとに 20 ドル。

会員諸兄にとって、最高のマーケティングとは水なし印刷のユニークな特長、品質、それに環境の有利性をうたうことである。長年にわたり、各会員のパンフレットを見させていただき、これら技術シートの優れた部分をまとめても見た。これらは貴パンフレットの置き換えでなく補足するものと意図している。

「水なし印刷はどのように作業するか」は、水なし印刷の工程と技術の入門書である。図解で水なし印刷と水あり印刷の比較がされ、水なし印刷の生産性、品質、環境利点を述べている。

「デザイナー、印刷発注者のための水なし印刷の利点」では印刷顧客にとっての、重要な品質面、より拡大する印刷コントラスト、調子デテール、色の一貫性に焦点を当てている。

C I E 色領域チャートと両方式を並べてのドット(点質)に触れている。

「水なし印刷と環境」では、水なし印刷の多くの環境利点について、強調点を述べている。揮発性有機化合物(V O C)の低減、もしくは削減の可能性、水と森林の保護、空気清浄と安全作業基準などに触れている。

水なし印刷マーケティングでは、これら環境保護の特質に最も力点を注いでいる。

「D I 印刷機、プレステック社の D I 水なし印刷」では、D I (R)機とその可能性につき幅広く触れている。特定機械メーカーを意識した内容ではない。同封サンプルはカラット・デジタル・プレス社の 74 カラット機を特集しているが、この技術シートの裏面は会員個々のニーズに合うように編集して頂きたい。

これら技術シートの陳列箱に選択されている画像、waterless printing and naturally, の品質水準はバタフライロゴのテーマと一体化したものと考える。

同封サンプルでは不幸にして文字誤植があるのにお気づきであろうが、皆様に送るCDではマスターを変更して訂正したものとなる。第4パラグラフの最後の文章は「DI機はゼロックスとリョービからも出されている。」と訂正した。

将来の技術シートは朗読用途のものも開発中。何か気がついた点、改善点は知らせて頂きたい。注文書を同封する。

できごと

新会員、トルコの Reslan Etiket 社の Suha Soysev は、新 Etipol Combi 2000、セミ・ロータリー水なし印刷機を設置したと報告してくれた。空冷式1号機を40年製のラベル加工機に取り付け。

スペインの連絡者、Bienvenido Andino の報告では、オランダの Roti Rotatiedruk 社は K B A 社の Corrina 輪転機を設置。Labelexpo 展で本会の協賛会員、Codimag 社はもう1台の VIVA 340 をスペインの印刷会社に販売。

AQ Australia 社の Gerald Viergever 氏(WPA 会長)は Nilpeter 社の水なしラベル印刷機を導入。

Printpoint 社(オーストラリア)は MAN ROLAND 社製 500 (B 1) を導入。本機は水なし、UV 装置つきデスプレーパウダー装置はない。Alan Rhode が言うには、同社は廃棄物の排除、リサイクル化を行い、グリーン化印刷へ向けて行進中。 -了-